



環境先進都市として持続可能な社会の実現に向けて

宇部市 市民環境部 部長 黒瀬 寛文

始めに、令和6年能登半島地震により、犠牲となられた方々に謹んでお悔やみを申し上げますとともに、被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。被災地の一刻も早い復興を心よりお祈り申し上げます。

さて、本市では、2050年カーボンニュートラルの実現に向けて、令和4年に策定した「第三次宇部市環境基本計画」に基づき、地球温暖化対策、安全な生活環境の確保、廃棄物の減量・資源化の推進、環境学習・教育の推進等を柱として各種施策を展開しています。

地球温暖化対策については、温室効果ガス排出量の削減に向けて、再生可能エネルギーの導入や省エネルギーの取組を推進しており、市民生活関連では、脱炭素につながる新しい豊かな暮らしを創る国民運動「デコ活」として、一人ひとりが衣食住・仕事・移動・買い物などあらゆる生活領域で、省エネ・低炭素型の行動や製品・サービスを選択するライフスタイルへの転換を啓発していきますので、皆様の御理解と取組への

御協力をお願いします。

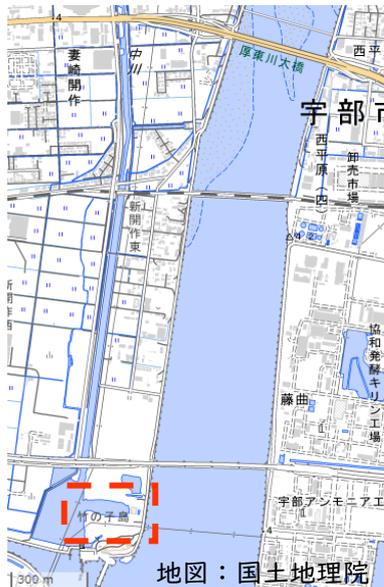
安全な生活環境の確保、廃棄物の減量・資源化の推進については、地域住民や環境団体、事業者等の皆様により、ごみの分別、3R活動等の廃棄物処理をはじめ、市内の道路・公園・河川等における草刈りやごみ拾い等の環境美化活動を実践していただいております。感謝を申し上げる次第です。

環境学習・教育の推進については、学校や環境団体等と連携し、小中学校等での環境学習の実施をはじめ、中・高・大学生等を対象としたディベート大会の開催、里山ビオトープ二俣瀬等の豊かな自然と恵みを生かした自然体験型環境学習の実施などを通じて、環境配慮行動を実践し、持続可能な社会を主体的に担う人材の育成に取り組んでいるところです。

今後も、環境と共生する環境先進都市として、産官学民の連携により、施策を展開してまいりますので、より一層の御理解と御協力をお願いいたします。



イベントのお知らせ



中川河口清掃 参加者募集！ (ヒノマイトトンボ生息地)

- ・日時：2024年2月23日
(金：天皇誕生日)
9：00～11：30
- ・場所：中川河口ヨシ原
- ・集合：中川ポンプ場 北駐車場
- ・問い合わせ：うべ環境コミュニティ
- ・申込：宇部市まちなか環境学習館へ
TEL 0836-39-8110 2月14日まで
mail: ubekuru@gmail.com

2023年度第3回ESD研修会

講演：DX高度情報社会における人材育成について(仮題)
三池 秀敏 (山口芸術大学学長、元山口大学副学長)
今年度のESD関連の活動や、ESDうべ推進協議会のあり方についても議論したいと思います。

- ・日時：2024年3月9日(土) 15：00～17：00
- ・場所：宇部市立図書館 2F講座室
- ・申込：宇部市まちなか環境学習館へ TEL 0836-39-8110
mail: ubekuru@gmail.com ・参加費200円・学生無料

3月の見学ツアー予告

佐賀市への見学バスツアーを3月15日(金)に実施予定です。下水汚泥の肥料化、ごみ焼却工場のCO2を有効利用した藻類培養、干潟ビジターセンターなど。詳細は2月中旬以降、宇部アイカHPや“うべっくる”にてご覧下さい。

宇部市まちなか環境学習館 銀天エコプラザ

〒755-0045 山口県宇部市中央町二丁目11番21号

交通手段 J R宇部線：「宇部新川駅」徒歩7分

宇部市営バス：「宇部中央バス停」徒歩3分

駐車場 無し (近隣の有料駐車場等をご利用ください)

TEL/FAX 0836-39-8110 E-mail ubekuru@gmail.com

開館時間 9時～17時 HPアドレス <http://ubekuru.com/>

休館日 土・日、年末年始(12月29日～1月3日)



HomePage



facebook



x



NPO法人うべ環境コミュニティー

宇部高校は、平成19年度から文部科学省のスーパーサイエンスハイスクール（SSH）の指定を受けるなど、効果的な探究学習の開発に取り組んできました。特に平成29年度にスタートした探究科では、授業で学んだことを活用し、学術的な課題や社会的な課題の解決をめざす課題研究の取組を重視してきました。今回は、環境に関連した探究学習として、探究科のSDGsに関する取組の一部を紹介します。

本校では令和3年度からSDGsを理解し、社会的な課題の解決に向けた意欲を喚起することを目的として、探究科1年生全員を対象にSDGsセミナーを実施しています。この取組は宇部市と連携しながら進めています。

さらに令和3年度には当時の探究科1年生の有志が、一般社団法人・ジャパンアートマイルの「アートマイル国際協働学習プロジェクト」に参加しました。コロナ禍で様々な取組が自粛される中、台湾の高雄市立新莊高級中学校の生徒とSDGsの目標を共有する日台混成の5つのグループをつくり、オンラインで地球規模の課題について協働学習しました。そして、学んだことを世界に発信する1枚の壁画（図1）を完成させることができました。この中のSDGs目標14「海の豊かさを守ろう」に関連した環境問題に取り組んだグループでは、日本は「海岸漂着ゴミ」、台湾は「サンゴの白化」をテーマに、調べ学習や現地調査（図2）を行い、交流を行うことができました。

プロジェクト終了後も日本側は「海岸漂着物が植物

に与える影響」をテーマに研究を継続し、日本生態学会高校生ポスター発表会に出場するなど、意欲的に活動しました。

「アートマイル国際協働学習プロジェクト」に参加した生徒たちは現在、高校3年生となり、大学受験に向けて日々頑張っています。探究学習の効果により、学術的な課題や社会的な課題と自らの進路が結びついたことが、学習意欲の向上につながったと感じています。



図1 台湾の生徒と協働学習発信の壁画



図2 原校区馬渡川河口の干潟にて、海岸漂着ゴミの調査

これまでの学校教育を受けてきて感じたこと

藤田歩夢（経営情報学科 3年）

こんにちは宇部工業高等専門学校3年経営情報学科の藤田歩夢です。

私は2005年に年に生まれて現在まで学校教育を受けてきました。その中で私が深く感じたことは教師に知識や規律を一方向的に教え込まれているということです。先生方が生徒たちのことを第一に考え、社会に貢献できる大人になるための教育を提供されていることは学校生活を通じて大きく感じました。

しかし、生徒が学校生活に少しでも不満を持っていることも事実です。特に小学校に入学したとき私が感じたことは強い束縛感でした。何か悪いことをしたら怒られるのは当然ですが、どうして怒られたのか根本的にわからないことがありました。私が小学校2年生のとき漢字テストがありそこで隣の人が鉛筆を忘れていたので貸してあげようとする、先生から「テストを真面目にしなさい」と怒られたことがありました。その時「どうして人に親切に使用したのに怒られたのだろうか？」いうことだったのに、それが伝わらず理不尽に怒られたと感じていました。



地域教育Aの中間発表に臨む2人（増田・藤田両君）2023.10.28

その経験から先生は正しいことを理解させるのではなく、正しいことをさせることに重きを置いているように感じました。そこから自分が考えてやろうとした行動でも正しさの前では無力であると痛感し、考えて行動したり、発言したりする積極性が少なくなりました。

このことは現代の若者に主体性や協調力が乏しく、物事を自分の事として考えることができなくなった要因の一つだと思います。若者が現代の社会問題への興味が薄く、選挙の投票率が低いのもそれが原因と私は思います。ここで私が考える課題は、若者が主体性や協調力を取り戻すためには学校教育に足りないものは何でしょうか。